

平成24年度事業報告書

I	事業の実施概要	1
	(1) 助成事業	1
	(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～	2
	(3) 国際交流活動	4
	(4) 制作者フォーラムの開催	4
	(5) 定期刊行物の刊行等	5
	(6) ホームページの運営	5
	(7) 個人情報保護	6
	(8) 資産運用検討委員会	6
II	処務の概要	7
	(1) 役員、評議員等に関する事項	7
	(2) 理事会および評議員会に関する事項	8

平成24年度事業報告書

I 事業の実施概要

わが国の放送は、前年度、平成23年度にテレビの地上デジタル化が完了し、平成25年2月には「テレビ放送開始60周年」を迎えるなど、放送と通信の融合、提携が一段と進み、放送の未来や可能性を探る動きが活発になっている。

こうした中、放送文化基金は、放送文化の発展に一層寄与すべく、助成事業、表彰事業、制作者支援活動事業の3つを柱に重点的・効率的に事業を実施した。

また財政面では、国内経済のデフレと欧州債務問題などの影響を受け、超低金利と為替の円高により、基金の資産運用はかつてない厳しい状況となった。しかし、昨年12月の政権交代を境に、いわゆるアベノミクスにより円安が急激に進んだことで、資産運用収入は予算に比べて大幅増収となり、一方、事業費の節減も進んだ結果、平成24年度の収支は最終的に5000万円近い黒字となった。

(1) 助成事業

ア 平成24年度助成

平成24年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行い、平成25年1月に其々開催した助成審査委員会の審査を経て、理事会で42件 5,500万円の助成を決定した。

申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

区 分	申 請		採 択	
	件 数	金 額	件 数	金 額
技術開発	27	6,801	11	2,200
人文社会・文化	72	10,268	31	3,300
合 計	99	17,069	42	5,500

「技術開発」では、インターネットの発達やデジタル化の進展によりコンテンツの多様化が進む中で、番組の自動推定に関する研究「テレビ番組の推薦・提示技術に関する研究」や、若手による斬新な研究と評価

された「映像コンテンツのターゲット視聴者層の自動推定に関する研究」などが採択された。また、2次元高精細画像が与える「立体感」の要因を、心理的、物理的に解明しようとする試みも成果が期待される。

「人文社会・文化」は、東日本大震災に関連した研究、放送の法制度や倫理に関する研究、テレビが視聴者に与える影響に関する研究等が採択された。またテレビ放送60年を迎える今年、番組に関するアーカイブ関連の研究も採択された。このほか、若手研究者の育成という観点からの採択もあった。

助成金贈呈式は、平成25年3月8日に研究報告会、目録贈呈式、懇親会の3部構成で実施した。

このうち研究報告会では、平成23年に実施した技術開発部門の『脳は美をどう感じるか～アートの脳科学』（慶應義塾大学文学部准教授 川畑秀明氏）と人文社会・文化部門の『「企業ジャーナリスト」のライフコース』（GCN<Gender and Communication Network>共同代表 東海大学文学部准教授 谷岡理香氏）の2件の研究成果が報告された。参加者は、放送関係者、研究者などおよそ70名で、報告後の質疑応答では活発な意見交換が行われた。

イ 平成22年度助成事業の実施報告

平成22年度に助成した技術開発14件、人文社会・文化36件について、平成24年10月～11月に開催した其々の審査委員会で、提出された実施報告（成果報告）について、一件ずつ内容を評価し、コメントと評価点を付けた。

（2）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第38回放送文化基金賞

第38回放送文化基金賞は、平成23年度中に放送された、優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成24年4月～5月に開かれた各部門、各分野の専門委員会と審査委員会を経て理事会で、合わせて26件を決定した。

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

部 門	領 域	応募・推薦数	表彰数	備 考
番 組 部 門	テレビドキュメンタリー	90	5	本賞 2、優秀賞 1、番組賞 2
	テレビドラマ	46	4	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 2
	テレビエンターテインメント	63	4	本賞該当なし、優秀賞 2、番組賞 2
	ラジオ	41	3	本賞 1、優秀賞 1、番組賞 1
	個別分野	—	5	番組部門受賞作品から選定
個人・グループ部門	放送文化	14	3	—
	放送技術	5	2	—
合 計		259	26	

番組部門の本賞の賞金は 80 万円、優秀賞は 40 万円、各番組賞は、20 万円
個別分野賞は 10 万円。個人・グループ部門の賞金は 30 万円。

本賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では、『幾歳経るとも
要心あれー 2011.03.11.東日本大震災ー』（IBC 岩手放送）と、
『NHK スペシャル 38 分間 巨大津波 いのちの記録』（NHK）、テレビ
ドラマ番組では、『スペシャルドラマ「坂の上の雲」』（NHK）、テレビ
エンターテインメント番組では、該当なし、ラジオ番組では、『遠いふるさ
と〜フクシマの家族・2011〜』（NHK 福島放送局）である。個人・グ
ループ部門・放送文化では、司法をテーマにした優れたドキュメンタリー
を制作した齊藤 潤一さん（東海テレビ放送）他が受賞した。

また、2011 年 3 月の東日本大震災の後、被災地で次々と立ち上がった
【臨時災害放送局】29 局に対し、番組部門、個人・グループ部門とは
別に＜特別賞＞を贈呈した。

基金賞の贈呈式は、6 月 22 日に千代田放送会館で、その後、懇親パー
ティーをホテル・ルポール麹町で行った。

イ 他の賞への参加

アジア太平洋放送連合（ABU）番組コンクールと第 39 回日本賞教育コ
ンテンツ国際コンクールに参加した。

・このうち、ABU 番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の
最優秀作品『鉄になる日』（毎日放送／日本）、『Inclusion different
together』（ARD BAYERISCHER RUNDFUNK／ドイツ）にそれぞれ賞を贈呈した。

ABU賞授賞式は平成24年10月15日にKBSホールで行われ、各分野の15番組と、技術分野の個人・グループなどに賞が贈られた。

・また日本賞は、平成24年10月25日授賞式が行なわれ「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『Believe in yourself 自分を信じて』（ジョイニング・ハンズ・ネパール／ネパール）に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第38回（平成23年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したマラウイ教育研究所の『Our TV is a carton!』（マラウイ）は、番組として完成し、今回の日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

（3）国際交流活動

ABU（アジア太平洋放送連合）の第49回年次総会が、平成24年10月11日～17日まで韓国・ソウルで開かれ、60の国、地域の216加盟メンバーから700人余りが参加した。基金からは谷村専務理事と職員3名が出席した。今回のテーマは「Beyond the Digital Wave」で、デジタル化による新たな環境と、視聴者への影響を検証しながら、アジアの放送の将来を探り、議論した。デジタル放送への移行に当たって、既存の放送の形とは異なる新しいメディアの展開や、ソーシャルメディアのインパクトなどについてどう備えていくのか、その解決策を模索する場となった。

（4）制作者フォーラムの開催

NHK、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的として、平成24年度は4地区で現地実行委員会と共催した。

内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるシンポジウムや講演会が行われた。

○北日本制作者フォーラム in せんだい(北海道・東北地区)

＜北海道、東北の民放とNHK、計40局＞

日 時 平成24年11月2日（金）

場 所 せんだいメディアテーク／仙台市

参加者 約140名

○北信越制作者フォーラム in とやま(北陸・長野、新潟地区)

＜北陸、長野、新潟の民放とNHK、計22局＞

日 時 平成24年11月17日（土）

場 所 パレブラン高志会館／富山市

参加者 約80名

○中四国制作者フォーラム in ひろしま（中国・四国地区）

＜中国、四国の民放とNHK、計32局＞

日 時 平成24年11月10日（土）

場 所 NHK広島局 ハイビジョンホール／広島市

参加者 約60名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州、沖縄の民放とNHK、計35局＞

日 時 平成24年12月1日（土）

場 所 NHK福岡放送局 ハイビジョンホール／福岡市

参加者 約60名

（５）定期刊行物の刊行等

“放送文化基金賞”の受賞者インタビュー、“助成”対象プロジェクトの研究内容の紹介などを中心とした広報誌「放送文化基金報（HBF）」No.77（24年9月）、No.78（25年4月）を刊行した。

（６）ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。

＜日本語版内容＞

助成の決定および成果の報告／申込書および報告書類フォーマットファイル／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧・申込書フォーマットファイル・実施細則／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／広報印刷物の紹介／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿 等

アクセス件数 48,665 件（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

＜英語版内容＞

助成の募集案内、日本賞・ABU賞への参加について 等

アクセス件数 3,342 件（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

（７）個人情報の保護

基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

（８）資産運用検討委員会

ア 目 的

当基金は、「資産運用方針」に基づき資産運用を進めているが、資産運用の専門性をより一層向上させるため、国内外の景気動向や債券市場の分析・機関投資家の動向等について幅広く情報の収集に努めるため、部外の専門家を含めた諮問的機関として「資産運用検討委員会」を平成 24 年 9 月と平成 25 年 1 月の 2 回開催した。

イ 委 員

青木 昭憲	（大和住銀投信投資顧問(株)法人部長）
柿沼 点	（大和住銀投信投資顧問(株)チーフエコノミスト）
奥原 健夫	（大和住銀投信投資顧問(株)ファンド・マネージャー）
松原 克美	（放送文化基金会計顧問・公認会計士）
箕浦 康子	（放送文化基金監事）
根本 佳則	（放送文化基金監事・NHK経営企画局長）

（幹事）

谷村 啓	（放送文化基金専務理事）
------	--------------

ウ 意見交換の主なテーマ

- ・ 欧州債務問題等の影響を受け、国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・ 債券市場の現状と資産運用ならびに保有債券の分析等

Ⅱ 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 役員・監事の選任等

理事・監事については平成24年6月8日の第4回評議員会で、新たに根本佳則氏が監事に就任し、石田研一監事が退任した。

根本 佳則 氏 (日本放送協会経営企画局長)

(任期 前任者の残任期間となるため、平成24年6月8日から25年6月の定時評議員会まで)

イ 評議員の選任等

(ア) 第4回評議員会(平成24年6月8日)において、次のとおり新たに選任した。

石田 研一 氏 (日本放送協会理事)

木村 信哉 氏 (日本民間放送連盟専務理事)

(任期 前任者の残任期間となるため、平成24年6月8日から27年6月の定時評議員会まで)

なお、金田 新 氏、福田 俊男 氏は平成24年6月8日退任

(イ) 第5回評議員会(平成24年12月6日)において、次のとおり評議員が退任した。

平岩 弓枝 氏 (作家、劇作家)

(退任日 平成24年11月30日)

ウ 審査委員の委嘱

第8回理事会(平成24年7月6日)において、審査委員会委員を次のとおり新たに委嘱した。

助成審査委員会委員(技術開発)

久保田 啓一 氏 (日本放送協会理事・技師長)

豊中 俊榮 氏 (TBS テレビ常務取締役技師長)

(任期 前任者の残任期間となるため、平成24年7月6日から26年3月31日まで)

なお、大塚隆広委員、永井研二委員は、平成24年7月5日退任

放送文化基金賞審査委員会委員

青木 隆典 氏 (日本民間放送連盟事務局長)

(任期 前任者の残任期間となるため、平成24年7月6日から26年3月31日まで)

なお、玉川 寿夫委員は、平成24年7月5日退任

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

開催年月日	主 な 議 案
平成 24. 5. 23 (第 7 回)	・ 第 4 回評議員会の開催について ・ 評議員、役員候補の推薦について ・ 平成 2 3 年度事業報告書および決算報告について ・ 第 3 8 回「放送文化基金賞」表彰対象について
平成 24. 7. 6 (第 8 回)	・ 審査委員の委嘱について
平成 24. 10. 5 (第 9 回)	・ 第 5 回評議員会の開催について
平成 24. 12. 6 (第 10 回)	・ 平成 2 5 年度予算編成の考え方について ・ 第 3 9 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・ 制作者フォーラムの実施結果について ・ 日本賞、A B U 賞の結果について
平成 25. 2. 15 (第 11 回)	・ 第 6 回評議員会の開催について ・ 平成 2 4 年度助成の実施について ・ 設立 4 0 周年記念事業の実施について ・ 平成 2 5 年度事業計画と収支予算の編成について ・ 平成 2 5 年度資産運用計画について

イ 評議員会

開催年月日	主 な 議 事
平成 24. 6. 8 (第 4 回)	・ 平成 2 3 年度事業報告書および決算について ・ 基本財産の議決について ・ 第 3 8 回放送文化基金賞選考結果について ・ 評議員の選任について ・ 役員の選任について

平成 24. 12. 6 (第 5 回)	・ 評議員の退任について ・ 平成 2 4 年度収支見通し及び平成 2 5 年度予算編成方針について
平成 25. 3. 15 (第 6 回)	・ 平成 2 5 年度事業計画と収支予算の編成について ・ 設立 4 0 周年記念事業について ・ 平成 2 4 年度助成の実施について